

平成 21 年 1 月 21 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2008 年 12 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2008 年 12 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		12 月度	対前年 同月増減 注 7)	(参考) 累計 注 8)	(参考) 対前年 累計増減 注 9)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	82.0%	0.6%	78.2%	-4.5%
	ADR (円)	18,726	57	16,912	938
	RevPAR (円)	15,350	159	13,224	14
	売上高 (百万円)	578	-49	2,324	-128
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	88.1%	6.1%	90.9%	6.3%
	ADR (円)	20,987	-916	19,875	192
	RevPAR (円)	18,480	540	18,072	1,405
	売上高 (百万円)	633	-26	2,522	67
なんばオリエンタルホテル	稼働率	75.3%	-9.7%	82.8%	-7.7%
	ADR (円)	11,061	-230	10,956	328
	RevPAR (円)	8,325	-1,269	9,072	-545
	売上高 (百万円)	160	-13	643	-30
ホテル日航アリビラ	稼働率	59.8%	-1.3%	79.5%	-0.7%
	ADR (円)	26,623	2,963	23,568	1,422
	RevPAR (円)	15,918	1,459	18,740	966
	売上高 (百万円)	368	1	1,738	13
オリエンタルホテル広島 注 6)	稼働率	72.0%	9.7%	77.5%	6.1%
	ADR (円)	9,109	441	9,111	371
	RevPAR (円)	6,556	1,162	7,058	818
	売上高 (百万円)	195	6	808	70
上記 5 ホテル合計	売上高 (百万円)	1,934	-80	8,035	-8

12月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、クリスマス期間の日並びの影響から競合ホテルがADR、RevPARを下げる中、価格設定・ルームコントロールを適切に行うことにより、稼働率、ADR、売上共前年とほぼ同水準となりました。料飲部門では、婚礼宴会が、土日の日数が昨年比で減少したこと、並びに2008年11月末に神戸市内に開業した婚礼施設の影響で婚礼件数が減少、料飲部門全体の売上も前年を下回りました。その結果、ホテルの総売上は、前年同月を約49百万円下回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門では、TDR25周年イベントによる集客効果が持続している中、ADRは前年同月を下回ったものの稼働率が上昇し、部門売上も前年を上回りました。レストラン部門においても、ランチを中心に好調裏に推移し、前年同月の売上を上回りました。宴会部門では、婚礼宴会が、土日の日数の昨年比での減少、並びに2007年夏より2008年秋にかけて千葉市及び船橋市に開業した新規の婚礼施設の影響により、前年売上を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約26百万円下回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門は、クリスマス期間の日並びが悪かったこと及び円高を受けた韓国インバウンドの低迷により対前年同月比で稼働率、ADR、売上が下回りました。レストラン部門は稼働の低下を受けた朝食売上を中心に、対前年同月比で売上が下回りました。結果的にホテル総売上は前年同月で約13百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、クリスマス期間を中心として対前年同月比で稼働率は低下したものの、26日から29日を中心にADRが前年同月を上回り、結果的に売上も前年を上回りました。料飲部門は、稼働率の低下に伴う宿泊人数の減少、及び日並びの悪かったクリスマス期間の夕食が伸び悩んだこと等により対前年を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約1百万円上回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、ネット販売を中心としたセールス活動が好調で、稼働率、ADRとも前年同月比を上回り、売上も前年を上回りました。料飲部門においては、レストラン部門はクリスマス期間の日並びが悪く前年を下回りましたが、宴会部門においては、9月初旬に竣工した3・4F宴会場のリニューアル効果により、前年を上回りました。その結果、ホテルの総売上は前年同月を約6百万円上回りました。

-
- 注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注 2) 各月の数字については監査等の手続を経していないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。
- 注 6) オリエンタルホテル広島については平成19年10月1日取得のため、対前年同月及び累計増減の算出基礎となる平成19年9月の数値は、未監査です。
- 注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。
- 注 8) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。
- 注 9) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>